



Cisco EPN Manager 6.1 のインストール

この章では、Cisco EPN Manager 6.1 のインストールを計画し、インストールに必要なすべての前提条件を満たしていることを確認するために必要な情報を示します。また、高可用性を持たない標準的な環境に Cisco EPN Manager 6.1 をインストールする手順についても説明します。高可用性については、[Cisco EPN Manager 6.1 高可用性インストール](#)を参照してください。

- [インストールの概要 \(1 ページ\)](#)
- [Cisco EPN Manager 6.1 のアップグレードパス \(2 ページ\)](#)
- [Cisco EPN Manager 6.1 のインストールの前提条件 \(2 ページ\)](#)
- [標準環境 \(非 HA\) での Cisco EPN Manager 6.1 のインストール \(4 ページ\)](#)
- [高可用性展開での Cisco EPN Manager 6.1 のインストール \(6 ページ\)](#)

インストールの概要

Cisco EPN Manager 6.1 は、次の手順に従って新規インストールとしてインストールできます。

1. Cisco EPN Manager 6.0 は、仮想マシンにインストールします。
[『Cisco Evolved Programmable Network Manager 6.0 インストールガイド』](#)を参照できます。
2. このガイドの手順の説明に従って、Cisco EPN Manager 6.1 UBF をインストールします。

次のトピックでは、標準展開および高可用性展開で Cisco EPN Manager 6.1 UBF をインストールするための情報と手順について説明します。

- [Cisco EPN Manager 6.1 のアップグレードパス \(2 ページ\)](#)
- [Cisco EPN Manager 6.1 のインストールの前提条件 \(2 ページ\)](#)
- [Cisco EPN Manager 6.1 のインストール \(非HA\) \(5 ページ\)](#)
- [プライマリサーバーとセカンダリサーバーへの Cisco EPN Manager 6.1 のインストール \(HA 展開\) \(8 ページ\)](#)



(注) インストール手順を開始する前に、インストールに関する重要な情報や問題について [リリースノート](#) を確認してください。

Cisco EPN Manager 6.1 のアップグレードパス

次の表に、以前のバージョンから Cisco EPN Manager 6.1 へのアップグレードに有効なパスを示します。

| 現在の Cisco EPN Manager バージョン | Cisco EPN Manager 6.1.0 へのインストールパス |
|--|--|
| Cisco EPN Manager 6.0.0 Cisco EPN Manager 6.0.1 | Cisco EPN Manager 6.0.0 (復元) > 6.0.1 > 6.1.0 |
| Cisco EPN Manager 6.0.2 | Cisco EPN Manager 6.0.0 (復元) > 6.0.2 > 6.1.0 |
| Cisco EPN Manager 5.1.4.1 | Cisco EPN Manager 5.1.4.1 > 6.0.0 (復元) > 6.0.1 > 6.1.0 |

Cisco EPN Manager バージョンのインストールの前提条件と手順については、関連する [インストールガイド](#) を参照してください。

ポイントパッチのインストール手順については、[cisco.com](#) の [ソフトウェアダウンロードサイト](#) のパッチファイルに付属の [readme](#) ファイルを参照してください。

Cisco EPN Manager 6.1 のインストールの前提条件



(注) Cisco EPN Manager 6.1 のインストールは、Cisco EPN Manager 6.0 OVA のインストールと、それに続く Cisco EPN Manager 6.1 UBF のインストールで構成されます。

Cisco EPN Manager 6.1 をインストールする前に、次のタスクを実行する必要があります。

- Cisco EPN Manager 6.0 が仮想マシンにインストールされていることを確認します。
『[Cisco Evolved Programmable Network Manager 6.0 インストールガイド](#)』を参照できます。
- [ライセンスング](#) (3 ページ)
- [自動クライアント ログアウトの無効化](#)

ライセンスング

Cisco EPN Manager には、初回インストールで自動的にアクティブ化される 90 日間の試用ライセンスが含まれています。試用期間を超えてアプリケーションを使用するには、次に示すように、実稼働環境と実稼働以外の環境の両方に必要な Cisco EPN Manager ライセンスを取得してインストールする必要があります。

実稼働環境の場合：

- 基本ライセンス（必須）
- スタンバイライセンス（オプション）：冗長性構成で構成された 2 台の Cisco EPN Manager サーバーを使用して高可用性展開を行う場合は、このライセンスを取得します。
- Cisco EPN Manager が管理するデバイスのタイプと対応する数の管理用ライセンス。

実稼働以外の環境（ラボ検証環境や開発環境など）については、Cisco EPN Manager のラボインストールごとに Cisco EPN Manager ラボライセンスを取得してインストールしてください。ラボライセンスは、冗長性（HA）、無制限の管理範囲を含むすべての Cisco EPN Manager のオプションを対象としています。

ライセンスのコピーは作成しないでください。

Cisco EPN Manager ライセンスを購入するには、最寄りの営業担当者にお問い合わせください。

Cisco EPN Manager で使用できるライセンスのタイプの詳細については、『[Cisco Evolved Programmable Network Manager ユーザーおよび管理者ガイド](#)』のライセンスの表示と管理に関する情報を参照してください。

自動クライアント ログアウトの無効化

一定期間クライアントがアクティブでない場合、自動的にログアウトされることがあります。インストール中にログアウトしないようにするには、次のように、システム設定でアイドルユーザーの自動ログアウトを無効にすることを推奨します。

- ステップ 1** [管理 (Administration)] > [設定 (Settings)] > [システム設定 (System Settings)] に移動し、[一般 (General)] > [サーバー (Server)] の順に選択します。
- ステップ 2** [グローバルアイドルタイムアウト (Global Idle Timeout)] セクションで、[アイドル状態のユーザーをすべてログアウト (Logout all idle users)] チェックボックスをオフにします。
- ステップ 3** システム設定への変更を保存するように促すメッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 5** Web GUI ウィンドウの右上にある歯車のアイコンをクリックし、[マイ設定 (My Preferences)] をクリックします。[ユーザーアイドルタイムアウト (User Idle Timeout)] で、[アイドルユーザーをログアウトする (Logout idle user)] チェックボックスをオフにします。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ7 Cisco EPN Manager からログアウトして、ログインし直します。

標準環境（非 HA）での Cisco EPN Manager 6.1 のインストール

標準環境（非高可用性）で Cisco EPN Manager 6.1 をインストールするには、次の手順に従います。

1. 「[Cisco EPN Manager 6.1 のインストールの前提条件](#)」のタスクを実行していることを確認します。
2. サーバーへの [Cisco EPN Manager 6.1 インストールファイルの配置](#)。
3. [Cisco EPN Manager 6.1 のインストール（非HA）](#)。
4. すべてのデバイスのインベントリ収集を実行して、データベースと同期させます。「[すべてのデバイスのインベントリとデータベースの同期（既存の展開のみ）](#)」を参照してください。

外部の認証および承認を使用している場合は、インストール後に、最新のアップデートを取得するために、ユーザータスク情報を AAA サーバーにエクスポートする必要があります。詳細については、『[Cisco Evolved Programmable Network Manager ユーザーおよび管理者ガイド](#)』を参照してください。

サーバーへの Cisco EPN Manager 6.1 インストールファイルの配置

この手順では、ubf インストールファイルをローカルマシンにダウンロードし、ローカルマシンから Cisco EPN Manager サーバーにアップロードする方法を説明します。



(注) インストールファイルをダウンロードするには、Cisco.com のアカウントが必要です。

ステップ1 「[Cisco EPN Manager 6.1 のインストールの前提条件](#)」のタスクを実行していることを確認します。

ステップ2 必要な ubf ファイルをローカルマシンにダウンロードします。

1. [Cisco.com のソフトウェアダウンロードサイト](#)に移動します。
2. Cisco EPN Manager マイナーリリースファイル（cepn6.1-buildXXX.ubf 形式）を見つけます。
3. ローカルマシンにファイルをダウンロードします。

ステップ3 ファイルがローカルサーバーにダウンロードされたら、チェックサム（MD5）と Cisco.com で入手可能なチェックサムを比較します。

ステップ 4 Cisco EPN Manager Web GUI に管理者権限を持つユーザーとしてログインします。

ステップ 5 ローカルマシンから Cisco EPN Manager サーバーに ubf ファイルをアップロードします。

1. 左側のサイドバーメニューから、[管理 (Administration)] > [ソフトウェア アップデート (Software Updates)] を選択します。
2. ページ上部の青色の [アップロード (Upload)] リンクをクリックします。
3. [アップデートのアップロード (Upload Update)] ダイアログボックスで、[参照 (Browse)] をクリックして、ダウンロードしたファイルに移動します。
4. [OK] をクリックしてファイルをサーバーにアップロードします。

Cisco EPN Manager 6.1 が正常にアップロードされると、[ファイル (Files)] タブの下にソフトウェアが表示されます。

Cisco EPN Manager 6.1 のインストール (非HA)

標準環境 (非高可用性) に Cisco EPN Manager 6.1 をインストールするには、次の手順に従います。

ステップ 1 左側のサイドバーから、[管理 (Administration)] > [ソフトウェアアップデート (Software Update)] を選択します。

ステップ 2 [ソフトウェアアップデート (Software Update)] ページの EPN Manager 6.1 に関連付けられている [インストール (Install)] ボタンをクリックします。

ステップ 3 インストールを続行するには、確認メッセージのポップアップ ウィンドウで [はい (Yes)] をクリックします。

(注) インストールが完了すると、サーバーが再起動します。

ステップ 4 既存のファイルを上書きするかどうかを確認するメッセージが表示された場合は、[はい (Yes)] をクリックします。

インストールが成功すると、ステータスが [インストール済み (Installed)] に変わります。Cisco EPN Manager が自動的に再起動し、Cisco EPN Manager の Web GUI にしばらくアクセスできなくなります。

ステップ 5 Cisco EPN Manager サービスのステータスを確認します。

1. Cisco EPN Manager サーバーとの SSH セッションを開始し、Cisco EPN Manager CLI 管理者ユーザーとしてログインします。
2. `ncs status` コマンドを実行して、少なくともヘルスマニター、データベース、NMS、SAM デーモン、DA デーモンのサービスが稼働していることを確認します。最適な Cisco EPN Manager 機能を使用するには、すべてのサービスが稼働している必要があることに注意してください。

ステップ 6 Cisco EPN Manager の Web GUI にアクセスできる場合は、ログインして、[ソフトウェア アップデート (Software Updates)] ページで Cisco EPN Manager マイナーリリースのステータスが [インストール済み (Installed)] になっていることを確認します。

1. 左側のサイドバーから、[管理 (Administration)] > [ソフトウェアアップデート (Software Update)] を選択します。
2. [Cisco EPN Manager マイナーリリース (Cisco EPN Manager Minor Release)] が [アップデート (Updates)] タブの下に [インストール済み (Installed)] として表示されていることを確認します。また、ubf ファイル (cepnm6.1-buildXXX.ubf の形式) が [ファイル (Files)] タブに表示されていて、[使用中 (In Use)] ステータスが [はい (Yes)] になっていることを確認します。

次のタスク



- (注) Cisco EPN Manager マイナーリリースをインストールすると Cisco EPN Manager が再起動されるため、同期クロック操作でのサービスの再起動は無視できます。

すべてのデバイスのインベントリとデータベースの同期（既存の展開のみ）

以前のバージョンの Cisco EPN Manager をすでに使用している場合（つまり、新規インストールではない場合）、デバイスで同期操作を実行する必要があります。同期操作では、デバイスの物理インベントリと論理インベントリを収集し、その情報をデータベースに保存するように Cisco EPN Manager に指示します。

ステップ 1 [モニター (Monitor)] > [ネットワークデバイス (Network Devices)] を選択します。

ステップ 2 すべてのデバイスを選択し、[同期 (Sync)] をクリックします。

高可用性展開での Cisco EPN Manager 6.1 のインストール

HA 環境で Cisco EPN Manager 6.1 をインストールするには、次の手順に従います。

1. 一般インストールおよび HA インストールの前提条件タスクの実行。
2. HA 設定の削除。
3. サーバーへの Cisco EPN Manager 6.1 インストールファイルの配置 (HA 展開)。
4. プライマリサーバーとセカンダリサーバーへの Cisco EPN Manager 6.1 のインストール (HA 展開)。

5. すべてのデバイスのインベントリとデータベースの同期（既存の展開のみ）。



- (注) 外部の認証および承認を使用している場合は、インストール後に、最新のアップデートを取得するために、ユーザータスク情報を AAA サーバーにエクスポートする必要があります。

一般インストールおよび HA インストールの前提条件タスクの実行

HA のインストールを開始する前に、次の手順を実行します。

- プライマリサーバーとセカンダリサーバーの両方で「[Cisco EPN Manager 6.1 のインストールの前提条件](#)」のタスクを実行します。

HA 設定の削除



- (注) このプロセスは、サーバーが HA 設定に関連付けられている場合にのみ必要です。

- ステップ 1 プライマリサーバーの Cisco EPN Manager Web GUI に管理者権限を持つユーザーとしてログインします。
- ステップ 2 左側のサイドバーから、[管理 (Administration)] > [設定 (Settings)] > [高可用性 (High Availability)] の順に選択します。
- ステップ 3 左側の [HA 設定 (HA Configuration)] をクリックします。
- ステップ 4 [削除 (Remove)] をクリックします。
- ステップ 5 削除操作が完了したら、[設定モード (Configuration Mode)] フィールドに [HA が設定されていません (HA Not Configured)] と表示されていることを確認します。

サーバーへの Cisco EPN Manager 6.1 インストールファイルの配置 (HA 展開)

はじめる前に

HA を有効にしたときに作成したパスワード (認証キー) があることを確認します。セカンダリサーバーにパッチをインストールするときに必要です。

- ステップ 1 「[HA 設定の削除](#)」の説明に従い、HA 設定を削除していることを確認します。
- ステップ 2 プライマリサーバーで、Cisco EPN Manager 6.1 ubf ファイルをアップロードします。「[サーバーへの Cisco EPN Manager 6.1 インストールファイルの配置](#)」の手順に従います。

ステップ 3 Cisco EPN Manager 6.1 ubf ファイルをセカンダリサーバーにアップロードします。(プライマリサーバーにアップロードされてインストールされたものと同じファイルを使用します。)

1. ブラウザに次の URL を入力することにより、セカンダリサーバーの HM Web ページにログインします。

https://serverIP:8082

ここで、*serverIP* はセカンダリサーバーの IP アドレスまたはホスト名です。

2. 認証キーを入力して、[ログイン (Login)] をクリックします。
3. [ヘルス モニター (Health Monitor)] ウィンドウの右上にある [ソフトウェア アップデート (Software Update)] をクリックして、[セカンダリサーバーのソフトウェア アップデート (Secondary Server Software Update)] ウィンドウを開きます。
4. 認証キーを入力して、[ログイン (Login)] をクリックします。
5. ウィンドウ タイトルの下にある [アップロード (Upload)] リンクをクリックし、ubf ファイルを参照して、[OK] をクリックします。

ubf ファイルのアップロードが成功すると、[ファイル (Files)] タブの下にファイルが表示されます。

プライマリサーバーとセカンダリサーバーへの Cisco EPN Manager 6.1 のインストール (HA 展開)

はじめる前に

- HA を有効にしたときに作成したパスワード (認証キー) があることを確認します。このパスワードは、セカンダリサーバーで Cisco EPN Manager マイナーリリースファイルをインストールするために必要になります。
- 進行中のバックアップがないことを確認します。

これにより、フェールオーバー後にコンプライアンスサーバーがセカンダリサーバー上で起動して稼働するようになります。

ステップ 1 「[Cisco EPN Manager 6.1 のインストール \(非HA\)](#)」の説明に従い、Cisco EPN Manager 6.1 をプライマリサーバーにインストールし、インストールの内容を確認します。インストール後に、プライマリサーバーが自動的に再起動し、Web GUI にしばらくアクセスできません。

ステップ 2 プライマリサーバーとセカンダリサーバーの両方でハードウェアクロックと NTP クロックを同期し、各サーバーのクロックが相互に同期されていることを確認します。

- (注) Cisco EPN Manager マイナーリリースをインストールすると Cisco EPN Manager が再起動されるため、同期クロック操作でのサービスの再起動は無視できます。

ステップ 3 セカンダリサーバーに Cisco EPN Manager 6.1 をインストールします。

1. ブラウザに URL (<https://serverIP:8082>) を入力して、セカンダリサーバーの HM Web ページにログインします。
ここで、*serverIP* はセカンダリサーバーの IP アドレスまたはホスト名です。
2. 認証キーを入力して、[ログイン (Login)] をクリックします。
3. [ヘルス モニター (Health Monitor)] ウィンドウの右上にある [ソフトウェア アップデート (Software Update)] をクリックして、[セカンダリサーバーのソフトウェア アップデート (Secondary Server Software Update)] ウィンドウを開きます。
4. 認証キーを入力して、[ログイン (Login)] をクリックします。
5. [ソフトウェア アップデート (Software Updates)] ページの Cisco EPN Manager マイナーリリースに関連付けられている [インストール (Install)] ボタンをクリックします。
6. インストールを続行するには、確認メッセージのポップアップ ウィンドウで [はい (Yes)] をクリックします。正常にインストールされると、ステータスが [インストール済み (Installed)] に変わり、セカンダリサーバーが自動的に再起動します。

ステップ 4 セカンダリサーバーが再起動した後、セカンダリサーバーでインストールを確認します。

1. セカンダリサーバーで SSH セッションを開始して、Cisco EPN Manager CLI 管理者ユーザーとしてログインします。
2. `ncs status` コマンドを実行して、少なくともヘルスマニター、データベース、NMS、SAM デーモン、DA デーモンのサービスが稼働していることを確認します。最適な Cisco EPN Manager 機能を使用するには、すべてのサービスが稼働している必要があることに注意してください。
3. Web GUI にアクセスできたら、セカンダリサーバーの [HM Web] ページでインストールとバージョンを確認します。ブラウザに次の URL を入力します。 <https://serverIP:8082>
ここで、*serverIP* はセカンダリサーバーの IP アドレスまたはホスト名です。
4. 認証キーを入力して、[ログイン (Login)] をクリックします。
5. [ヘルス モニター (Health Monitor)] ウィンドウの右上にある [ソフトウェア アップデート (Software Update)] をクリックして、[セカンダリサーバーのソフトウェア アップデート (Secondary Server Software Update)] ウィンドウを開きます。
6. 認証キーを入力して、[ログイン (Login)] をクリックします。
7. [ファイル (Files)] タブで、Cisco EPN Manager マイナーリリースファイル (`cepnm6.1-buildXXX.ubf` 形式) が表示されていて、[使用中 (In Use)] ステータスが [はい (Yes)] になっていることを確認します。

ステップ 5 プライマリサーバーで、高可用性を有効にし、プライマリサーバーの HA のステータスが [プライマリ アクティブ (Primary Active)] であることを確認します。

1. 高可用性を有効にします。
 1. Cisco EPN Manager Web GUI に管理者権限を持つユーザーとしてログインします。
 2. 左側のサイドバーメニューから、[管理 (Administration)] > [設定 (Settings)] > [高可用性 (High Availability)] の順に選択します。
 3. 左側の [HA 設定 (HA Configuration)] をクリックして、セカンダリサーバーの IP アドレス、セカンダリサーバーの認証キー、および Cisco EPN Manager が HA のステータス変更通知を送信する電子メールアドレスを入力します。

4. HA セットアップで仮想 IP アドレッシングを使用している場合（プライマリ サーバーとセカンダリサーバーが同じサブネットにある場合）は、[仮想 IP の有効化（Enable Virtual IP）] チェックボックスをオンにして、仮想 IP アドレスを入力します。
 5. 「HA 設定の準備状況の確認」で説明されているプロセスに従って、HA の準備状況を確認します。
 6. [保存（Save）] をクリックして、サーバーが同期されるまで待ちます。
 7. 設定モードが [HA 対応（HA Enabled）] になっていることを確認します。
2. プライマリ サーバーの HA ステータスを確認します。
 1. 左側の [HA ステータス（HA Status）] をクリックします。
 2. [現在のステータス モード（Current State Mode）] に [プライマリ アクティブ（Primary Active）] と表示されていることを確認します。

ステップ 6 セカンダリ サーバーの HA ステータスが [セカンダリ同期中（Secondary Syncing）] になっていることを確認します。

1. ブラウザに URL（https://serverIP:8082）を入力して、セカンダリサーバーの HM Web ページにログインします。
ここで、**serverIP** はセカンダリ サーバーの IP アドレスまたはホスト名です。
2. 認証キーを入力して、[ログイン（Login）] をクリックします。
3. [現在のステータス モード（Current State Mode）] が [セカンダリ同期中（Secondary Syncing）]（緑色のチェックマーク付き）になっていることを確認します。

HA 設定の準備状況の確認

HA 設定時に、HA に関連する他の環境パラメータ（システム仕様、ネットワーク構成、サーバー間の帯域幅など）によって HA 設定が完了したかが判別されます。

15 のチェックがシステムで実行され、エラーや障害なく HA 設定が完了したことが確認されます。準備状況の確認機能を実行すると、チェックリストの名前および対応するステータスが、該当する場合は推奨事項とともに表示されます。



(注) **準備状況の確認**によって HA 設定がブロックされることはありません。すべてのチェックに合格しなくても、HA を設定できます。

プライマリとセカンダリの認証キーが異なる場合、準備状況チェックは続行されません。HA 登録を続行できます。

HA 設定の準備状況を確認するには、次の手順に従います。

ステップ 1 管理者権限を持つユーザー ID とパスワードを使用して Cisco EPN Manager にログインします。

- ステップ 2** メニューから、[管理 (Administration)] > [設定 (Settings)] > [ハイアベイラビリティ (High Availability)] の順に選択します。Cisco EPN Manager によって HA ステータス ページが表示されます。
- ステップ 3** [HA 設定 (HA Configuration)] を選択します。
- ステップ 4** [セカンダリサーバー (Secondary Server)] フィールドにセカンダリサーバーの IP アドレスを入力し、[認証キー (Authentication Key)] フィールドにセカンダリの認証キーを入力します。
- ステップ 5** [準備状況の確認 (Check Readiness)] をクリックします。

ポップアップウィンドウが開き、システム仕様およびその他のパラメータが表示されます。画面には、チェックリスト項目の名前、ステータス、影響、推奨事項の詳細が示されます。

その下に、準備状況の確認に使用されたチェックリストのテスト名と説明のリストが表示されます。

表 1: チェックリストの名前と説明

| チェックリストのテスト名 | テストの説明 |
|---|---|
| システム - CPU数の確認 (SYSTEM - CHECK CPU COUNT) | プライマリサーバーとセカンダリサーバーの CPU 数を確認します。 両方のサーバーの CPU 数が要件を満たしている必要があります。 |
| システム - ディスク IOPS の確認 (SYSTEM - CHECK DISK IOPS) | プライマリサーバーとセカンダリサーバーのディスク速度を確認します。 必要な最小ディスク速度は 200 Mbps です。 |
| システム - RAM サイズの確認 (SYSTEM - CHECK RAM SIZE) | プライマリサーバーとセカンダリサーバーの RAM サイズを確認します。 両方のサーバーの RAM サイズが要件を満たしている必要があります。 |
| システム - ディスクサイズの確認 (SYSTEM - CHECK DISK SIZE) | プライマリサーバーとセカンダリサーバーのディスクサイズを確認します。 両方のサーバーのディスクサイズが要件を満たしている必要があります。 |
| システム - サーバーへの ping 確認 (SYSTEM - CHECK SERVER PING REACHABILITY) | プライマリサーバーが ping を介してセカンダリサーバーに到達できることを確認します。 |
| システム - OS 互換性の確認 (SYSTEM - CHECK OS COMPATABILITY) | プライマリサーバーとセカンダリサーバーの OS バージョンが同じであることを確認します。 |
| システム - ヘルス モニターのステータス (SYSTEM - HEALTH MONITOR STATUS) | ヘルスマニタープロセスがプライマリサーバーとセカンダリサーバーで実行されているかどうかを確認します。 |

| | |
|--|--|
| ネットワーク - ネットワーク インターフェイスの帯域幅確認 (NETWORK - CHECK NETWORK INTERFACE BANDWIDTH) | インターフェイス eth0 の速度がプライマリサーバーとセカンダリサーバーで推奨されている 100 Mbps に一致しているかどうかを確認します。 このテストでは、プライマリサーバーとセカンダリサーバー間でのデータ送信によるネットワーク帯域幅の測定は行いません。 |
| ネットワーク - データベース ポートの開閉についてファイアウォールの確認 (NETWORK - CHECK FIREWALL FOR DATABASE PORT ACCESSIBILITY) | データベースポート 1522 がシステムファイアウォールで開いているかどうかを確認します。 このポートが無効になっていると、テストは IP テーブルリストで 1522 の権限を付与します。 |
| データベース - オンラインステータスの確認 (DATABASE - CHECK ONLINE STATUS) | データベースファイルのステータスがオンラインになっており、プライマリサーバーとセカンダリサーバーでアクセス可能であるかどうかを確認します。 |
| データベース - メモリターゲットの確認 (DATABASE - CHECK MEMORY TARGET) | HA セットアップの「/dev/shm」データベースメモリターゲットサイズを確認します。 |
| データベース - リスナーのステータス (DATABASE - LISTENER STATUS) | プライマリサーバーとセカンダリサーバーでデータベースリスナーが稼働中であるかどうかを確認します。 障害が発生した場合、テストによってリスナーの起動とステータスの報告が試行されます。 |
| データベース - リスナー設定ファイルの破損確認 (DATABASE - CHECK LISTENER CONFIG CORRUPTION) | すべてのデータベースインスタンスがデータベースリスナー設定ファイル「listener.ora」に存在するかどうかを確認します。 |
| データベース - TNS 設定ファイルの破損確認 (DATABASE - CHECK TNS CONFIG CORRUPTION) | すべての「WCS」インスタンスがデータベース TNS リスナー設定ファイル「tnsnames.ora」に存在するかどうかを確認します。 |
| データベース - TNS 到達可能性のステータス (DATABASE - TNS REACHABILITY STATUS) | プライマリサーバーとセカンダリサーバーで TNSPING が成功しているかどうかを確認します。 |

ステップ 6 すべてのパラメータのチェックが完了したら、パラメータのステータスを確認し、[クリア (Clear)] をクリックしてウィンドウを閉じます。

(注) 準備状況の確認中のフェールバック イベントとフェールオーバー イベントは、[アラームおよびイベント (Alarms and Events)] ページに転送されます。設定障害イベントは [アラームおよびイベント (Alarms and Events)] リストに表示されません。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。